

CSR報告書を読んで ステークホルダーの方々のご意見



株式会社
ニッセイ基礎研究所
上席主任研究員
川村 雅彦 様

CSRとデューデリジェンス

ドロッカーは、CSRをマネジメントの三つの役割の一つと明言した。その第一義は「自社の社会に及ぼす影響への責任」であり、「社会全体の問題解決に向けた責任」を第二義とする。前者はISO26000によるCSRの定義そのものであり、後者はCSV(共有価値の創造)における社会的課題の解決に向けた事業に相当する。

しかるに、シミズのCSRはどうか。三本柱によるCSR体系は妥当であり、業界初のグローバル・コンパクト署名なども先進的である。しかし、第一義のCSRについては必ずしも明示的ではない。ISO26000は自ら社会的課題を助長していないか、

デューデリジェンス(予防的な調査・対処)を強調する。これはグローバルなバリューチェーン(調達から建設そして解体に至る価値連鎖)における企業価値の毀損回避につながる。

KPIとCSR経営の範囲

2013年はシミズの「KPI元年」となった。CSR領域ごとのKPI設定と自己評価は、CSR経営の定量化によるPDCAの開始である。KPIが多過ぎては何が重要なのか曖昧になるが、業種特性を勘案した優先設定は評価したい。CSRの2020年目標などと連動させたKPIは経営目標そのものであり、社内浸透に期待する。一方、KPIの設定はCSR経営の範囲(バウンダリー)設定でもある。現在は国内事業を対象としているが、今後のグローバル事業拡大に合わせた拡大は必然である。

労災撲滅と人材ダイバーシティ

建設業の労働安全の基本は、自ら重点

施策と位置付けるとおり、度数率・強度率の改善と墜落・転落・転倒の撲滅である。背景には少子高齢化など社会の構造的変化もあるが、COHMS(建設業労働安全衛生マネジメントシステム)などの運用強化が必要である。併せて、専門職の質量確保を含め、人材ダイバーシティの観点からも業界を牽引する仕組みづくりに期待する。

企業価値の創造と統合思考

遅かれ早かれ、財務情報と非財務情報を統合して報告する時代が来る。企業価値の創造に対する財務情報の説明力が低下しているからである。シミズに限らず多くの企業は、これまで両者を別々に考え開示してきた。しかし、これからは企業価値の最大化のために、経営戦略レベルでESG(環境・社会・統治)要素と事業展開の統合・整合が不可欠である。財務情報と非財務情報を関係付ける将来志向の「統合思考」の深化に期待する。

※KPI: P5参照



株式会社
日本政策投資銀行
環境・CSR部長
竹ヶ原 啓介 様

今年度の最大の特徴は、ACTIVITIESに関してKPIが設定・提示された点に求めることが出来ます。これまでも重要データは随所に特記されてきましたが、これを「KPI」として打ち出すかどうかの違いは大きいと考えます。もちろん、設定が難しいテーマもありますし、データ選定やコミットメントレベルなど悩みはつきませんが、各章の巻頭に掲げられた潜在的なKPI候補ともいえる様々な「評価指標」も含め、今後、様々なステークホルダーの意見に耳を傾けつつ改善していくフレームワークが提示されたわけですから、清水建設のCSR報告の今後を規定する変化といえ

るのではないのでしょうか。

そのACTIVITIESは、昨年同様に貴社CSR経営の三本柱に沿って整理されていますが、今回は各テーマの相互関連性が明確になった印象を持ちました。巻頭特集のパハ・セランゴール導水プロジェクトが発するメッセージ性のためです。このコンテンツの主眼は、グローバル事業を支える高い技術力の紹介にあるのでしょうか、加えて、①技術移転やキャパシティ・ビルディングを通じた現地での人材育成を介して実現される社会的価値、②海外拠点で人材を育成・確保することによる清水建設自身の事業継続力の強化、③建設業ならではのダイバーシティ像の提示、など多面的な価値創造を連想させてくれます。改めて建設業がもたらす「価値」について考える契機を与えてくれる内容です。これは、三本柱を通底する清水建設の究極のKPI像を遠望することにもつながるように思えます。

他方、気になったのは、サステナビリ

ティ事業の中核に位置づけられているecoBCP®が巻頭特集のエコキャンパス以外目立たなかった点です。防災やレジリエンス能力向上といった取り組みのB/C(費用便益比)を考えるうえで、多面的な便益を示す非常によいコンセプトなので、例えばハード・ソフトのパッケージ商品としてももう少し前面に打ち出しても良いのではないのでしょうか。まじめに作り込まれていることの裏返しですが、全体的に再現性を重視し、確実にデータで語れるところまでに記載を止めた結果、コンセプトや意義を伝え切れていない部分があるのも惜まれます。

建設業にとって、自社の提案を採用することにより生じる価値をどう見せていくかは、先進的な製造業が直面する「環境貢献量」の可視化と並ぶ大きなテーマです。清水建設には業界のリーダー役として是非この課題に挑戦し、「新しい都市・建築像」を提示していただきたいと思えます。

ステークホルダー・ダイアログを開催して

19号を数える本報告書の中で、私どもは常にステークホルダー・ダイアログを最も重要な対話の窓口として、CSR活動の姿ならびにその情報開示の在り様を議論してまいりました。今回のダイアログでは、ここ何年かの議論にあった「建設業のCSRを語る指標」の確立についてはKPI(Key Performance Indicators)の明示、またKPIと事業活動との関連について新たに署名参加した国連グローバル・コンパクトの各行動原則を合わせて表示、さらに参考事例のアーカイブについてはWeb版に「シミズCSR100選」を掲載するなど、ダイアログで重ねた議論の成果を含め、対話を実り多いものにできたと考えております。活動の多様化に伴い、統合報告書へのロードマップ設定等の課題も増えておりますが、さらに活動と情報公開の充実を図ってまいりたいと存じます。

さて、今年の特集は「ひらく・ひろげる」と題し、海外と国内の都市機能充実に向けた活動事例を取り上げました。海外事例はマレーシアにおけるトンネル建設の中での技術移転を直接の掲載主題とするものですが、その先には「サプライチェーンにおけるフェアディー」を意図したものです。従来、国際プロジェクトでは技術移転、安全・環境文化の紹介に絞られがちですが、我々の社会的役割として「多国籍チームのマネジメント」の課題に取り組んだ事例を紹介することが出来ました。一方、国内は都市部でのエネルギー・防災自立型学園造りの事例を取り上げました。これもecoBCP®の主題の一つ「非常時の自立」についての社会的役割分担の在り方を提案した活動でありました。国内外を問わず、個別建設プロジェクトの価値創造過程の中では取り組みの難しかった社会的課題を、事業活

CSR担当
専務執行役員
東條 洋



動の中心軸で解決していくCSR活動の代表例として、ご覧いただければと存じます。

本報告書を中心とした情報開示によって、広範なステークホルダーの方々との対話が年ごとに深まり、活動の場が広がっていることは、私どもにとって本当にありがたいことと考えております。本年も多くの場で対話をさせていただき、さらに透明性の高い企業活動の実践につなげてまいりたいと存じます。本報告書をさらに多くの方々にご覧いただけるようお願い申し上げます。

ステークホルダー・ダイアログ実施状況

専門家、学生、消費者というさまざまなステークホルダーの皆様とのダイアログ(対話)の機会を設けています。

■2013年4月11日(木) 場所：当社会議室

「シミズCSR報告書2013 第19号」について、専門家の視点によるダイアログを行いました。

ニッセイ基礎研究所の川村様には、本書が前身の持続可能性報告書に代わり、はじめてCSR報告書として発行した2008年からご意見を頂戴し、2009年から毎年開催しているステークホルダー・ダイアログに継続してご参加いただいています。

日本政策投資銀行の竹ヶ原様には、昨年に引き続きご参加いただきました。昨年のご助言を踏まえ、KPIを設定しました。

今回も当社のCSR活動を少しずつ前進させるための貴重なご助言をいただくことができました。

【出席者】
株式会社日本政策投資銀行
環境・CSR部長 竹ヶ原 啓介 様

株式会社ニッセイ基礎研究所
上席主任研究員 川村 雅彦 様
当社 専務執行役員 東條 洋 他



■2012年10月19日(金) 場所：当社会議室

「シミズCSR報告書2012 第18号」について、学生の視点による評価分析結果を元にダイアログを行いました。

昨年に引き続き、評価・分析の結果をご説明いただきました。学生の皆様の率直な視点でのご指摘をいただくとともに、建設業以外の他業種の報告書との幅広い印象比較などを交えた、有効な議論が展開されました。今後の編集方針を決めるうえで大変有用な機会となっております。

【出席者】
武蔵野大学 環境学部 環境学科
工学博士 教授 佐々木 重邦 様
ERW21学生メンバー
鈴木 智大 様、滝沢 郁香 様
春田 啓輔 様、矢澤 公美 様
当社 CSR推進室長 平谷 敏 他



■2013年3月22日(金) 場所：当社東京木工場

(一財)経済広報センター主催の「企業と生活者懇談会」を東京木工場で開催しました。

総合建設業唯一の自社内木工場の見学を通じて、一般生活者の方々に「現代の匠の技術」を知っていただくとともに、質疑応答・意見交換を行いました。重要なステークホルダーである社会の声を企業として真摯に受け止め、今後の経営に活かしていくための良い機会となりました。

【出席者】
(一財)経済広報センター
社会広聴会員(生活者)の皆様 19名
当社 東京木工場長 井手 勇人 他



2012年度 社外顕彰受賞一覧

■BCS賞 第53回受賞作品



豊洲キュービックガーデン(設計・施工)



株式会社日比谷花壇
日比谷公園店(フラワーショップH)(施工)



京都華頂大学・華頂短期大学
葵の広場新棟建設計画(施工)

■土木学会賞 技術賞



京王電鉄調布駅付近連続立体交差事業

技術賞



東尾久浄化センター主ポンプ棟建設工事

■BELCA賞 第22回 ロングライフ部門



旧唐津銀行本店
(元・設計施工、改修施工)

■その他の顕彰受賞一覧

顕彰名	受賞作品等
土木学会賞 環境賞	気泡シールドの水生環境負荷を従来の25分の1に低減する特殊起泡剤「エコムース」の開発と実用化
土木学会賞 技術開発賞	研磨材スラリーを用いた土留め壁切削通水工法(アプレシブ・ウォールカット工法)の開発
土木学会賞 論文賞	地球統計学的手法を用いた地下水水質分布の推定とその不確実性の評価
土木学会賞 田中賞	広島空港大橋
土木学会賞 田中賞	東京ゲートブリッジ
BELCA賞 第22回 ベストリフォーム部門	マルヤガーデンズ(元・改修施工)
日本建築学会賞(技術)	三次元免震システムの開発と集合住宅への適用(阿佐ヶ谷「知粋館」)
空気調和・衛生工学会賞 技術賞	東京都立多摩総合医療センター・小児総合医療センターの環境親和型設備の実現
空気調和・衛生工学会賞 技術賞	日産自動車グローバル本社の環境・設備計画と実施
空気調和・衛生工学会振興賞 技術振興賞	富士ゼロックスR&Dスクエアの空気調和設備
省エネ・照明デザインアワード	アマダ土岐事業所テクニカルセンター
日本免震構造協会賞技術賞	阿佐ヶ谷「知粋館」
公共建築賞 優秀賞	いしかわ総合スポーツセンター
公共建築賞 優秀賞	「木もれ陽の里」軽井沢町保健福祉複合施設
日経ニューオフィス賞	日本ヒューレット・パッカード(日本HP)本社
日経ニューオフィス賞	株式会社日立ハイテクノロジーズ総合棟
Building Construction Authority (BCA) Green & Gracious Builder - Excellence Award (シンガポール建設省 緑と周辺環境に配慮した建設業者 優秀賞)	-
CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)日本報告会 環境活動情報開示優秀企業 及び削減実績優秀企業	-
日本経済新聞社「第16回環境経営度調査」建設業部門第1位	-

*ここに掲載していない受賞実績は、ホームページ(<http://www.shimz.co.jp/csr/environment/report/report2013.html>)の報告書データを参照してください。

第三者保証報告書

P34~35に掲載した「地球温暖化防止 エコロジー・ミッション」の取り組みによるCO₂排出量及び削減量に関して、新日本サステナビリティ株式会社による第三者保証を取得しています。



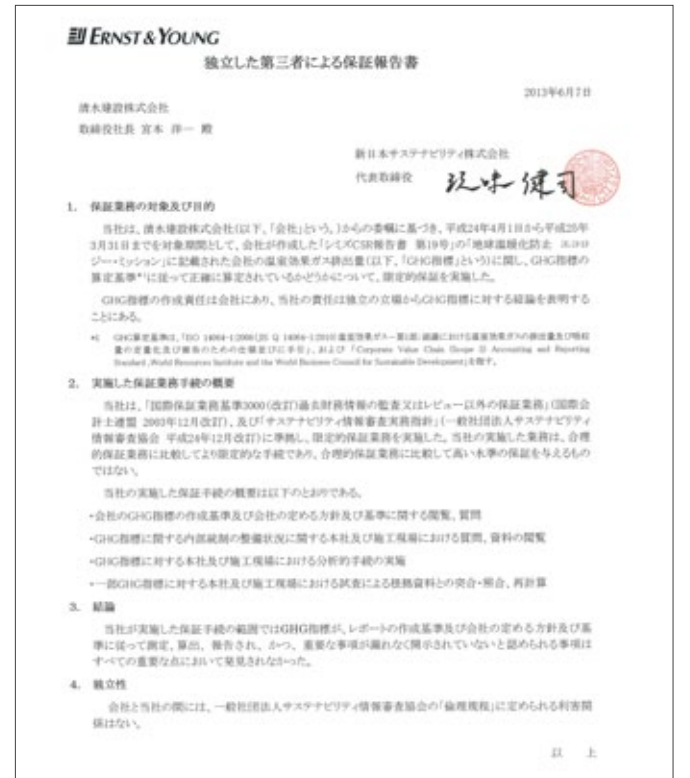
作業所現地往査(書類審査)



作業所現地往査(現地確認)



帳票・データの証跡調査



エコロジー・ミッションの算定方法等の詳細をホームページ http://www.shimz.co.jp/csr/environment/report/pdf/data_2013.pdf に掲載しています。

環境マネジメントシステム(ISO14001)

■方針・目的

全社の「環境基本方針」のもと、ISO14001を認証取得した建築・土木事業部門、エンジニアリング事業本部および原子力・火力本部は、それぞれ「環境方針」を制定しています。
<http://www.shimz.co.jp/csr/environment/manage/index.html>

■組織・体制

http://www.shimz.co.jp/csr/environment/activity/manage_sys.html

■外部審査および内部環境監査結果

<http://www.shimz.co.jp/csr/environment/report/pdf/report2013add2.pdf>

■継続的改善

環境活動計画内の年度目標の一項目として、毎年新たな目標を設定し、実績をフォローしています。
<http://www.shimz.co.jp/csr/environment/activity/plan.html>

■教育

人材開発方針の下、系統別・機能別専門教育を軸としたプログラムを通じ、環境教育を実施しています。
<http://www.shimz.co.jp/csr/human/education.html>

品質マネジメントシステム(ISO9001)

■品質方針

建築・土木・エンジニアリング事業部門毎に品質方針を定めています。
(建築事業部門)
お客様が期待する価値を的確に捉え、営業から保全までの全てのプロセスにおいて、全従業員が「品質へのこだわり」を持って、最適品質の造りこみを行い、信頼され、満足していただける技術とサービスを提供する。

(土木事業部門)

経営理念及び経営戦略を基盤として、顧客や社会が期待する価値を的確に捉え、全従業員が「最高の技術力と誠意・情熱」をもって、要求事項を満たす建造物を最適品質の造りこみにより一貫して提供し続けることで、顧客からの信頼と満足を得るとともに社会へ貢献する。

(エンジニアリング事業部門)

顧客ニーズと高度な専門技術との融合により、事業性、機能性、持続性があり、法規制に適合した価値ある優れた環境と施設を品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001:2000に即して実現し、顧客満足の向上を図り、顧客の信頼を得る。

■継続的改善と外部審査

各事業部門で、上記方針を踏まえ品質マネジメントシステムを構築し、維持するとともに、品質目標を設定し、活動状況のレビューを実施するとともに、ISO9001の認証取得によるサーベイランス審査・更新審査の外部審査を踏まえ、継続的改善を図っています。

編集後記

2012年度は省エネなどの環境技術や、喫緊の課題である防災・減災技術の開発展開に注力し、また、海外事業や都市レベルの取り組みといった空間的な広がりや、再生可能エネルギーへの参画など事業領域も拡大した年でした。これらの活動を象徴する言葉「ひろく・ひろげる」を特集のテーマとし、その代表的なプロジェクトを紹介しています。

ACTIVITIESでは今回から当社のCSRへの取り組みをよりご理解いただけるようKPIを掲載しました。またホームページに「シミズCSR100選*」を新たに公開しました。毎年行っている継続的な取り組みなどを厳選して紹介するもので、これからも充実させて参ります。今後も読者の皆様からのご意見をいただきながら、さらに充実したCSR活動をすすめていきたいと思います。

*シミズCSR100選 <http://www.shimz.co.jp/csr/csr100/index.html>



安全環境本部
地球環境部長 穴井 伸二

清水建設株式会社

●お問い合わせ先●

安全環境本部 地球環境部
TEL.(03)3561-5153 (ダイヤルイン)

本社

東京都中央区京橋2丁目16番1号 〒104-8370
TEL.(03)3561-1111

建築事業本部

東京都中央区京橋2丁目16番1号 〒104-8370
TEL.(03)3561-3100

東京支店

東京都中央区京橋2丁目16番1-14号 〒104-8370
TEL.(03)3561-3700

横浜支店

横浜市中区吉田町65番地 〒231-0041
TEL.(045)261-3981

千葉支店

千葉市中央区富士見2丁目11番1号 日土地千葉ビル7・8階 〒260-0015
TEL.(043)227-0231

関西事業本部

大阪市中央区本町3丁目5番7号 御堂筋本町ビル 〒541-8520
TEL.(06)6263-2800

大阪支店

大阪市中央区本町3丁目5番7号 御堂筋本町ビル 〒541-8520
TEL.(06)6263-2800

神戸支店

神戸市中央区磯上通4丁目1番13号 神戸磯上ビル 〒651-0086
TEL.(078)262-8011

四国支店

高松市寿町2丁目4番5号 〒760-8533
TEL.(087)839-4300

北海道支店

札幌市中央区北1条西2丁目1番地 札幌時計台ビル13階 〒060-8617
TEL.(011)214-3511

東北支店

仙台市青葉区木町通1丁目4番7号 〒980-0801
TEL.(022)267-9111

北陸支店

金沢市玉川町5番15号 〒920-0863
TEL.(076)220-5555

関東支店

さいたま市大宮区下町1丁目51番地 木崎屋ビル 〒330-0844
TEL.(048)631-3311

名古屋支店

名古屋市中区錦1丁目3番7号 〒460-8580
TEL.(052)201-7611

広島支店

広島市中区上八丁堀8番2号 〒730-8535
TEL.(082)225-4611

九州支店

福岡市中央区渡辺通3丁目6番11号 福岡フコク生命ビル 〒810-8607
TEL.(092)716-2002

土木事業本部

東京都中央区京橋2丁目16番1号 〒104-8370
TEL.(03)3561-1111

土木東京支店

東京都中央区京橋2丁目16番1-10号 〒104-8370
TEL.(03)3561-3800

土木横浜支店

横浜市中区吉田町65番地の7 〒231-0041
TEL.(045)253-2280

国際支店

78 Shenton Way #11-01, Singapore 079120
TEL.(65)6220-0406

東京都中央区京橋2丁目16番1号 〒104-8370
TEL.(03)3561-1111

投資開発本部

東京都中央区京橋2丁目16番1号 〒104-8370
TEL.(03)3561-1319

エンジニアリング事業本部

東京都中央区京橋2丁目16番1号 〒104-8370
TEL.(03)3561-4301

技術研究所

東京都江東区越中島3丁目4番17号 〒135-8530
TEL.(03)3820-5504



この印刷物は、FSC® 認証紙を使用し、植物油100%の「大豆油インキ」を使って、「水なし印刷」で印刷しております。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。